

滋賀県地域情報化推進会議
令和2年度 ICT利活用検討部会 実施報告

滋賀県地域情報化推進会議 ICT利活用検討部会

実施概要

企業や行政機関が持つデータは 地域課題解決にどのような可能性をもたらすのか

滋賀県地域情報化推進会議では、令和元年度からICT利活用検討部会(滋賀データ活用LAB)を設置し、企業や行政機関が持つデータが地域課題解決にどのような可能性をもたらすのか、テーマ別に研究を行ってきた。

滋賀データ活用LABでは、令和元年度から2年度にかけて、「観光」「交通」分野のデータ利活用の検討を行ってきた。各企業からデータをご提供いただき、それぞれのデータについて、立命館大学、滋賀大学、滋賀県立大学の3大学に分析を依頼し、令和3年3月2日に分析結果を発表した。

■ 令和2年度の研究テーマ:観光・交通

【立命館大学】

バスロケーションデータ分析

データ提供: 近江鉄道株式会社

【滋賀大学】

びわ湖FreeWi-Fi人口分析

データ提供: 滋賀県無料Wi-Fi整備促進協議会
株式会社ワイヤ・アンド・ワイヤレス

【滋賀県立大学】

宿泊傾向分析、タクシー走行データ分析

データ提供: 株式会社リクルートライフスタイル
近江タクシー株式会社

■ 実施結果

令和2年 6月 第1回・第2回研究会(書面)

12月 第3回研究会(書面)

令和3年 3月 研究発表会の開催

立命館大学「バスロケーションデータ」

バスロケーションデータを用いたバス所要時間の変動特性の分析

立命館大学では、路線バスが抱える課題について取り上げ、時刻表とバスの到着時間の乖離に着目し、バスの遅延要因を分析した。

バスロケーションデータを可視化(グラフ化)し、通勤通学の時間帯は遅延が発生しやすいことや、雨の時間帯の方が遅延すること、特定の地点で混雑する傾向があることがデータから読み取れた。

また、大学の1限(9:00)に間に合うバスについてデータ分析を行ったところ、雨天時は、早く出発したバスでも遅くに出発する別系統のバスの方が到着が早くなる場合があることが分かった。

提案： 遅延がみられる時期とその他の時期の計画所要時間を調整すべき
天候によって到着までの時間に変化があるため、予測到着時刻の情報提供が有効である
道路ネットワーク全体での渋滞対策が効果的である

滋賀大学「公衆無線LAN」

びわ湖フリーWi-Fi現状把握と地域発展のために

滋賀大学では、滋賀県など市町や民間事業者らが構成する滋賀県無料Wi-Fi整備促進協議会が実施している公衆無線LAN「びわ湖フリーWi-Fi」のデータをもちいた現状と課題分析を行った。

過去36か月分のデータを分析したところ、該当期間内で利用が無かったアクセスポイント(以下「AP」)が一部あったことが分かった。また、新型コロナウイルス感染症が流行し始めた2020年4月以降は、びわ湖フリーWi-Fi全体の利用者数が急激に増加しており、また、ホテルやグルメ分野では、2020年3月～5月でびわ湖フリーWi-Fiの利用が減少していることがデータから読み取ることができた。

また、APが設置されているはずの現地で、SSIDが店内で確認できず、びわ湖フリーWi-Fiが利用できない環境となっている場所があったり、利用者が特定の人のみに限られている箇所もあることが分かった。

提案： APデータの分析から現状を把握し、設置施設等に状況をフィードバックすべき
ショッピングや公共施設分野はAPの利用者数が伸びにくく、既存のAP利用者数を増やす工夫が必要
交通施設分野や観光スポットはAP利用者数が伸びやすい傾向があるため、積極的にAPを増やすべき
AP設置の優先順位について、APのデータ分析から検討すべき
(利用数の伸びやすさでは、交通施設、観光スポット、グルメ、ホテル、旅館、公共施設、ショッピングの順)

※ 発表資料については、関係機関から了承を得たうえで、滋賀県地域情報化推進会議のウェブサイトに掲載予定

滋賀県立大学「宿泊傾向データ、タクシー走行データ」

地図の上に現れる滋賀県における旅客データの可視化と分析

滋賀県立大学では、宿泊傾向データとタクシー走行データから、滋賀県における旅客データの可視化と分析を行った。

宿泊傾向分析では、県外地域のデータと組み合わせて分析を行った。地域のデータの相関関係を分析し、相関の強弱を図表化することで、観光客がどのような地域を行き来しているかを確認した。

また、タクシー走行データについては、1か月分のデータを用いて、乗降頻度をヒートマップで図表化した。ヒートマップによる可視化では分かりにくい移動パターンについては、行列を使った分析を行い、駅から乗車した人は、特定施設の周辺で降車すること、特定施設周辺で乗車された人は、駅で降車することが多いことなどが分析結果から分かった。

提案： より多くの、かつ長期的なデータがそろえば、もっと深い分析ができる

データ提供者からの主なコメントと、まとめ

近江鉄道株式会社、近江タクシー株式会社

- 鉄道駅で実施している渋滞解消に係る交通規制の社会実験などでもバスロケーションデータを活用できるのではないか
- タクシー走行データの分析結果については、乗合タクシーの役割を確認することができたが、乗合タクシーが無い地域の場合は分析結果がまた違ってくるのではないか、時間帯別に分析するともっと面白くなるのではないか

株式会社ワイヤ・アンド・ワイヤレス

- 普段の業務とは違った視点から意見をもらえた
- データをつぶさに活用したことがあまりなかったため、事業者としては耳が痛い内容も含まれていたが、今後の施策に活かしていけるのではないか
- コロナ禍で公衆無線LANの使われ方に変化があったということが分かり、人々の行動変容をデータから見ることができた

株式会社リクルートライフスタイル

- 地域ごとに分析されたところに興味がわいた
- データ自体が2020年3月までのデータだったので、新型コロナウイルス感染症の流行後にどのような傾向があったかというのも興味がある
- 宿泊傾向データだけでなく、タクシーやWi-Fiデータと組み合わせて分析を行えば、もっと面白い結果が出てくるのではないか
- データは活用してこそ価値があるので、今日の分析結果を踏まえてデータ分析の取組をもっと進めていきたい

今後、DXを推進する上では、デジタルの浸透を図ることが求められている。しかし、まだまだ県内ではデータの価値を見据えた投資が進んでいないのが実態である。

企業や行政の経営にどのようにインパクトを与えることができるかという観点で、それぞれがデータを持ち寄り、企業価値を高める努力をしようという雰囲気醸成されることが、データ利活用の活発な議論につながると考える。